

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小音1】

【分科会】小学校音楽科

【実施日】令和7年9月29日（月）

担当大学名	東京音楽大学			
会 場	(会場名) 東京音楽大学 中目黒校舎			
	(所在地) 東京都目黒区上目黒1-9-1			
講 師 (肩書・氏名)	東京音楽大学教授・付属音楽高校校長／武石みどり 東京音楽大学講師／坂本夏樹 玉川大学講師／井原小百合			
対 象	小学校音楽科担当教員等	定員	参集 ○	20名
		(該当欄に○)	オンライン	

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	音や音楽によるコミュニケーションと音楽づくり		
研修内容の概要	「音や音楽によるコミュニケーション」についての概説と実践ワークショップ		
	[学習指導要領との関連] 小学校音楽科：「A表現」 (3) 「音楽づくり」ア、イ、ウ〔共通事項〕(1)ア、イ		
内容と方法	①音や音楽を利用したコミュニケーションの基本的なあり方や効果について、概説を通して理解します。 ②音楽づくりワークショップ（グループワークによる実践）を体験し、様々な方法を学びます。 創作発表と振り返り、相互ディスカッション等を通して、理解を深めます。		
到達目標	音や音楽によるコミュニケーションを通じた音楽づくりについて、基本的な知識とスキルを習得し、授業で実際に活用できるようになる。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）	参集
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	音・音楽 によるコミュニケーションとは	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:30	ワークショップ1 音・音楽によるコミュニケーションから音楽づくりへ	グループワーク
	14:30～14:45	休憩	グループワーク
	14:45～16:30	ワークショップ2 音楽づくり実践、発表と振り返り	グループワーク
	16:40～17:00	全体講評・振り返り	全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	特になし（もしあれば、身近で持参可能な楽器）		
特記事項	○資料の配布方法：予定なし ○事前・事後課題の有無：なし ○受講する上での環境条件等：身動きのしやすい服装でご参加ください		

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小音2】

【分科会】小学校音楽科

【実施日】令和7年9月29日（月）

担当大学名	徳島文理大学			
会 場	(会場名) 徳島文理大学音楽学部オーケストラ室			
	(所在地) 徳島市山城町西浜傍示180			
講 師 (肩書・氏名)	千住 明（作曲家、徳島文理大学客員教授） 原井俊典（徳島文理大学音楽学部副学部長／教授） 佐野 靖（徳島文理大学副学長／教授）			
対 象	小学校音楽科担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	音楽づくりは楽しい！ ～鑑賞との関連、ICT活用の視点から～		
研修内容の概要	児童にとって音楽づくりは楽しく取り組める学習活動であり、他の音楽活動との関連を工夫したりすることによって、より深い達成感や充実感を得ることができます。本研修では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、講師による具体的な実践提案を体験することを通して、音楽づくりの本来の楽しさを実感し、授業改善に結び付く視点や方法を学んでほしいと思います。		
	[学習指導要領との関連] 小学校音楽科：「A表現」(3)「音楽づくり」ア、イ、ウ、「B鑑賞」(1)ア、イ、〔共通事項〕		
内容と方法	①ICTを用いて音遊びや即興的に表現する活動を楽しみます。 ②実践事例を踏まえながら、授業における音楽づくりと鑑賞の関連を図るポイント等を学びます。 ③いろいろな方法で音楽づくりにチャレンジし、つくって表現する楽しさを学びます。		
到達目標	①音楽づくりに関するさまざまな知識や技能を得たり生かしたりしながら、各学校の実態に応じた活動を工夫することができる。 ②授業改善に向けて、子どもが音楽づくりの楽しさを実感できるような指導法や学習内容に関して新たな視点や方法を考察することができる。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）	参集/登壇
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～15:00	テーマ別実践研修（午後の部）	参集
	15:00～15:15	休憩	
	15:15～15:30	リフレクション	個人作業
	15:30～16:10	グループディスカッション	グループワーク
	16:10～16:40	まとめと質疑応答	
	16:40～17:00	視学官による全体講評・振り返り	全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	筆記用具		
特記事項	○資料の配布方法：当日配布 ○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等：特になし		

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小音3】

【分科会】小学校音楽科

【実施日】令和7年10月2日（木）

担当大学名	東京藝術大学			
会 場	(会場名) 東京藝術大学 上野キャンパスアーツ&サイエンス ラボ 球形ホール			
	(所在地) 東京都台東区上野公園 1 2 - 8			
講 師 (肩書・氏名)	岩井智宏（桐蔭学園小学校教諭）、市川恵（東京藝術大学准教授）			
対 象	小学校音楽科担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	40名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	題材における音楽の学びの在り方を考える		
研修内容の概要	本研修では、「題材」の構成と展開に焦点を当て、歌唱、器楽、鑑賞といった分野、領域間を有機的に関連づけながら、児童が音楽的な見方・考え方を働かせられる授業づくりの在り方について考える。		
	[学習指導要領との関連] 小学校音楽科：「A表現」（1）「歌唱」ア、イ、ウ、（2）「器楽」ア、イ、ウ、「B鑑賞」（1）ア、イ、〔共通事項〕（1）ア、イ		
内容と方法	講師による実践提案を受講生が実際に体験することを通じて、児童の資質・能力を育成する題材の在り方や教材開発の視点について考えていく。あわせて、講師による実践報告を参照しながら、これらの研修内容を各学校の教育実践にどのように生かすかについて、グループワークを通して考察を深めていく。		
到達目標	1 児童の音楽的な見方・考え方を働かせながら資質・能力を育成する題材づくりについて理解し、各学校の実態に応じた題材を構想することできる。 2 授業改善に向けて、題材における子どもの学びの深まりや教材開発の視点を多角的に考察することができる。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）	参集／登壇
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修①	参集（講義）
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～13:50	テーマ別実践研修②	参集（演習）
	14:00～16:00	テーマ別実践研修③	参集（演習）
	16:10～16:40	振り返り・質疑応答	グループワーク
	16:40～17:00	視学官による全体講評・振り返り	全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	筆記用具		
特記事項	○資料の配布方法：当日配布 ○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等：学内に学食はございますが、混雑が予想されます。		

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小図1】

【分科会】小学校図画工作科

【実施日】令和7年9月30日（火）

担当大学名	東京藝術大学			
会 場	(会場名) 東京藝術大学 上野キャンパス 中央棟第4講義室			
	(所在地) 東京都台東区上野公園12-8			
講 師 (肩書・氏名)	伊藤将和 准教授			
対 象	小学校図画工作科担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	版画表現（身近な材料を使用したリトグラフ）			
研修内容の概要	版画表現における平版（リトグラフ）についてその性質や原理を知り、身近な材料を活用しながら楽しく学びます。教材開発の視点を踏まえながら、自由な発想や構想を基に実践を通して版表現の可能性を探ります。			
	[学習指導要領との関連] 小学校図画工作科：「A表現」(1)イ、(2)イ、「B鑑賞」(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ			
内容と方法	版表現の多彩な表現方法を知るとともに、版画におけるリトグラフを身近な材料を使いながら製作します。 リトグラフとは、石版画（せきばんが）とも呼ばれる、水と油の反発作用を利用し、版面に描いた多様な表現を印刷できる版画技法です。 造形活動を通して、材料との関わりを捉え直し、表現へ結びつける思考力、判断力、表現力等（発想や構想）の育成について考えます。 加えて、他者との共同して表す活動を体験し、多様性と創造性の関係について理解を深めていく活動を行います。			
到達目標	・ 版表現の多彩な表現を体験する。 ・ 学校や児童の実態に応じて、使用する材料と表現の関係を見直す教材を選択できるようになる。 ・ 共同して表す活動を通し、自己や他者との関係を踏まえた多様な表現の理解を深める。			
スケジュール		実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）		参集／登壇
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部） 版画研究室見学		参集
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～13:40	テーマ別実践研修（午後の部） 版画の原理について説明		参集
	13:40～15:00	各自のテーマをもとにリトグラフの制作		各自活動
	15:10～16:40	共同して表す活動としてグループごとにリトグラフの製作		グループワーク
	16:40～17:00	調査官による全体講評・振り返り		全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	汚れても良い服装（エプロンなど）、筆記用具			
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：なし ○受講する上での環境条件等：学内に学食はございますが、昼食時には混雑が予想されます。			

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小図2】

【分科会】小学校図画工作科

【実施日】令和7年10月3日（金）

担当大学名	東京造形大学			
会 場	(会場名) 東京造形大学			
	(所在地) 東京都八王子市宇津貫町1556			
講 師 (肩書・氏名)	前半(実技):末永史尚教授 石賀直之教授 後半(理論):石賀直之教授 末永史尚教授			
対 象	小学校図画工作科担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	20名

<テーマ別実践研修> プログラムの内容

テーマ	絵に表す活動と関連した環境に関わる高学年の造形遊び
研修内容の概要	<p>身の回りの環境の中で感じたことに対して表現活動を行う高学年の造形遊びを行います。この活動は絵に表す活動とリンクしており、高学年の造形遊びのねらいや意図がより深まります。資質・能力の育成の観点では日常的に過ごす空間に変化を与えることを通して主に思考力、判断力、表現力等について高めていきます。</p> <p>まず始めに自分自身を取り囲む環境とは一体どのようなものなのか造形的な視点での「場所や空間の意味」とその価値に気づくための考え方を理解し、どのように環境と関わっていくか事例を見ながら理解していきます。次に絵に表す活動からそれらを分解し空間に再構成していきます。これら一連の活動を通して高学年の造形遊びに見られる学習のあり方について講師と対話をしながらさらに理解を深めていきます。その後、受講者同士のグループディスカッションにおいて高学年の造形遊びの具体的な題材のあり方について議論していきます。なかなか取り上げられる機会が少ない場所や空間を生かした造形遊びの考え方についてより深く学んでいきます。また、高学年の造形遊びにおけるICTの効果的な活用の仕方についても具体的事例をもとに体験していきます。</p> <p>[学習指導要領との関連] 小学校図画工作科：第5学年及び第6学年 A表現(1)ア(2)ア B鑑賞(1)ア (共通事項) (1)ア、イ</p>
内容と方法	<p>前半 実技講習 末永史尚教授 石賀直之教授 1) 場所や空間の概念やその特徴の気付き方、場や空間の変容の意味や価値、絵に表す活動から広がる発想について理解する。 2) 大学内の様々な空間を生かし、造形活動を行う。 3) 互いの活動を見ながら振り返りを行う。</p> <p>後半 理論講習 石賀直之教授 末永史尚教授 1) 前半の実技講習と学習指導要領の関連について理解する。 2) 高学年の造形遊びの具体的な題材のあり方についてグループディスカッションを行う</p>
到達目標	<p>○造形遊びにおける場所や空間の意味とその価値に気づくための考え方を理解する。</p> <p>○絵に表す活動と環境を生かした造形活動を通して学べることやその学習の流れについて理解する。</p> <p>○活動の過程で生まれる発想や、考えや思いの方向性の再検討といった高学年の造形遊びに見られる学習のあり方を理解し、その指導法について学ぶ。</p> <p>○高学年の造形遊びにおけるICTの効果的な活用の仕方について理解する。</p>

(次ページへ続く)

スケジュール	実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	参集/登壇
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:15	講義及び実技：環境を生かした造形活動の事例と絵に表す活動の実際	参集
	12:15～13:15	昼食	
	13:15～14:45	実技：環境と関わりながら絵を素材に空間に再構成していく	グループワーク
	14:45～15:30	実技：講評会	参集
	15:45～16:00	講義：学習指導要領から見る実技と造形遊びとの関連	グループワーク
	16:00～16:30	実技 グループワークによる題材作成	グループワーク
	16:40～17:00	調査官による全体講評・振り返り	全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了	参集
教材・持ち物等	受講会場で配布いたします。		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無： なし ○受講する上での環境条件等： 学内の様々な場所で活動しますので動きやすい服装で参加して下さい。		

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小図3】

【分科会】小学校図画工作科

【実施日】令和7年10月3日（金）

担当大学名	東京造形大学				
会 場	(会場名) 東京造形大学				
	(所在地) 〒192-0992 東京都八王子市宇津貫町1556				
講 師 (肩書・氏名)	岩瀬大地 教授 小林貴史 教授				
対 象	小学校図画工作科担当教員等		定員	参集 ○	12名
			(該当欄に○)	オンライン	

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	つくり、つくりかえ、つくる 自然と造形のあわいにある学びの姿		
研修内容の 概要	図画工作科の授業では、日頃から様々な材料に触れ、そこから発想を広げ自らの表現へとつなげています。そこには材料を対象化して客観的に扱うということだけではなく、材料や活動からの多くの気づきが児童の成長へとつながる豊かな活動をもたらしていることを私たちは知っています。いま、学校教育のさまざまな場面において「持続可能な開発のための教育」を行うことが求められています。このことはまた、図画工作科の学習においても持続可能な社会を実現していくための一役を担うことが期待されているということです。本研修では、サステナビリティ（持続可能性）の理念への理解とともに、実践研修を通して、自然としての材料と造形活動との関係がどのように学びを支え、そこに生まれるコミュニケーションの場が児童の自己形成を深めていくかについて考えていきます。		
	[学習指導要領との関連] 小学校図画工作科：「A表現」(1)イ、(2)イ、〔共通事項〕（1）ア、イ		
内容と方法	里山の中に入り、自然と身体とのかかわりを感じ取ります。そして、学内の植物を採取し、切り、煮て、たたき、分解したものを漉きながら成形し、新たな形を生み出すことから自然と造形の動的な関係を確認していきます。 また、実技研修での体験をもとに、図画工作科の授業としてつくり、つくりかえ、つくるという活動を通して児童が自らの変容を自覚し、自己形成へとつなげる授業をグループごとに構想します。そして、図画工作科の学びにおいて大切にしたいことを共有していきます。		
到達目標	学校や地域の実態に応じて、材料とのかかわりや造形活動を通して持続可能な社会づくりへと目を向けていくとともに、児童自らの自己形成へとつながる授業づくりを構想する。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）	参集/登壇
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）・自然と身体 植物の採集	屋外での実践
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～15:00	テーマ別実践研修（午後の部）・材料づくり 漉き、成形	制作活動
	15:00～15:10	休憩・会場移動	
	15:10～16:30	授業づくりの検討・つくり、つくりかえ、つくることにある自己形成	グループワーク
	16:40～17:00	教科調査官による全体講評	全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了	

（次ページへ続く）

教材・ 持ち物等	エプロンや汚れてもよい服装、靴の準備
特記事項	<p>○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード</p> <p>○事前・事後課題の有無：なし</p> <p>○受講する上での環境条件等：昼食には学食も利用できます。（学外近隣には飲食店がありませんので、ご注意ください。）</p>

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高音1】
【分科会】中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽） **【実施日】令和7年9月29日（月）**

担当大学名	東京音楽大学			
会 場	(会場名) 東京音楽大学 中目黒校舎			
	(所在地) 東京都目黒区上目黒1-9-1			
講 師 (肩書・氏名)	小日向英俊（東京音楽大学教授） 福田裕美（東京音楽大学准教授）			
対 象	中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○	15名
			オンライン ○	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	諸民族の音楽の考え方・教え方～要点とヒント			
研修内容の概要	世界の音楽と文化についての理解の仕方を多角的に学びます。 本講座はハイブリッドで実施し、実践（参集者のみ）と知識を結びつけ、諸民族の音楽文化に関する授業展開に役立つトピックを取り上げていきます。			
	[学習指導要領との関連] 中学校音楽科： 第1学年、第2学年及び第3学年／「A表現」(2)「器楽」ア、イ(ア)(イ)、ウ(ア)(イ)、 (3)「創作」ア、イ(ア)(イ)、 「B鑑賞」(1) ア(ア)(イ)(ウ)、イ(ア)(イ)(ウ)、〔共通事項〕(1)ア、イ 高等学校芸術科： 音楽Ⅰ、音楽Ⅱ／「A表現」(2)「器楽」ア、イ(ア)(イ)(ウ)、ウ(ア)(イ)(ウ)、(3)「創作」ア、イ、ウ(ア)(イ)(ウ)、 「B鑑賞」(1) ア(ア)(イ)(ウ)、イ(ア)(イ)(ウ)、〔共通事項〕(1)ア、イ 音楽Ⅲ／「A表現」(2)「器楽」ア、イ(ア)(イ)、ウ、(3)「創作」ア、イ、ウ、 「B鑑賞」(1) ア(ア)(イ)(ウ)、イ(ア)(イ)(ウ)(エ)、〔共通事項〕(1)ア、イ			
内容と方法	①世界の国や地域の音楽と文化について、様々な視点と理解の仕方を整理します。 ②実際の民族楽器を使用したデモンストレーションとワークショップ（参集のみ）を体験します。 オンライン参加者は、デモンストレーションと説明の視聴、および参考動画などを組み合わせた同時進行の講座が進められます。 ③動画・資料を使用して多文化の音楽を紹介し、授業での活用のヒント・工夫などについてまとめます。 ④質疑応答			
到達目標	音楽の根源や捉え方を多面的に捉え、様々な文化の音楽の楽しさと奥深さを知るとともに、生徒の関心や知識に合わせた授業・指導実践での活用方法を習得します。			
スケジュール		実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）		参集・オンライン（講義）
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～12:00	世界の音楽文化と理解		参集・オンライン（講義）
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～14:30	民族音楽の実践と理論／多文化の音楽と要点1		参集・オンライン（演習）
	14:30～14:45	休憩		
	14:45～16:30	民族音楽の実践と理論／多文化の音楽と要点2／演習まとめと質疑		参集・オンライン（質疑応答）
	16:40～17:00	調査官による全体講評・振り返り		参集・オンライン（講義）
	17:00	アンケート提出後、研修終了		

（次ページへ続く）

教材・ 持ち物等	特になし
特記事項	<p>○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード</p> <p>○事前・事後課題の有無：なし</p> <p>○受講する上での環境条件等：身動きのしやすい服装でご参加ください。オンライン参加者はインターネット環境をご準備ください。</p>

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高音2】
【分科会】中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽） **【実施日】令和7年10月3日（金）**

担当大学名	京都市立芸術大学			
会 場	(会場名) 京都市立芸術大学			
	(所在地) 京都市下京区下之町5 7 番 1			
講 師 (肩書・氏名)	森本 瑞生（京都市立芸術大学音楽学部音楽学科 管・打楽器専攻 講師）			
対 象	中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容	
テーマ	打楽器音楽の鑑賞と実践 ～シンプルな指導方法を探る～
研修内容の概要	<p>打楽器は古くから世界中の文化に存在し、人間の根源的なエネルギーを象徴する楽器であると考えています。打楽器の使用用途は多岐にわたり、リズムの中心的な役割を果たしたり、時には音程のある打楽器によってメロディやハーモニーが表現されたりします。この研修では、打楽器アンサンブルの鑑賞を通して打楽器の魅力に迫るとともに、実際にスティックを用いて演奏実践を行い、シンプルな打楽器の指導法について考察します。</p> <p>また、音楽科教員には打楽器専攻出身者が少ないと思われるので、研修を通して打楽器の授業や題材研究のきっかけになればと考えます。</p> <p>[学習指導要領との関連]</p> <p>中学校音楽科： 第1学年、第2学年及び第3学年／「A表現」(2)「器楽」ア、イ(ア)(イ)、ウ(ア)(イ)、 「B鑑賞」(1)「鑑賞」ア(ア)(イ)(ウ)、イ(ア)(イ)(ウ)、〔共通事項〕(1)ア、イ</p> <p>高等学校芸術科： 音楽Ⅰ、音楽Ⅱ／「A表現」(2)「器楽」ア、イ(ア)(イ)(ウ)、ウ(ア)(イ)(ウ)、 「B鑑賞」(1)「鑑賞」ア(ア)(イ)(ウ)、イ(ア)(イ)(ウ)、〔共通事項〕(1)ア、イ</p> <p>音楽Ⅲ／「A表現」(2)「器楽」ア、イ(ア)(イ)、ウ、「B鑑賞」(1)「鑑賞」ア(ア)(イ)(ウ)、イ(ア)(イ)(ウ)(エ)、 〔共通事項〕(1)ア、イ</p>
内容と方法	<p>西洋的な打楽器アンサンブルは1930年代から始まったとされており、今に至るまで発展し続けており、日本の吹奏楽のアンサンブルコンテスト等でも広く親しまれています。しかしよく考えてみると、オーケストラでは舞台の一番後ろに位置し、他の楽器と比べると出番の少ない打楽器が、アンサンブルの主役として演奏されるようになったという流れは非常に興味深いものです。様々なスタイルの打楽器アンサンブルを鑑賞して頂き、打楽器音楽の魅力をお伝えできればと思います。</p> <p>また、実際にスティックを手にとって頂き、打楽器演奏を実践するためのシンプルな方法を考察します。</p>
到達目標	<p>打楽器音楽を様々な角度から味わうとともに、打楽器の指導法についても実際にスティックを使用し実践しながら考察する。打楽器に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、豊かな表現について創意工夫し、生徒の器楽の表現を豊かにするための実践力を身に付ける。</p>

（次ページへ続く）

	実施内容		実施方法
スケジュール	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	参集/登壇
	10:45～11:00	休憩	
	11:00～12:00	打楽器アンサンブル鑑賞	参集（講義）
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～15:15	打楽器演奏実践	参集（演習）
	15:15～15:30	休憩	
	15:30～16:00	打楽器演奏実践（まとめ）	参集（演習）
	16:00～16:20	調査官による全体講評・振り返り	全体講評・振り返り
	16:20	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	ドラムスティックは用意をしております。（使い慣れたドラムスティックをお持ちであれば持参いただくことも可能です。）		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無し ○受講する上での環境条件等：昼食会場として学生食堂をご利用いただけますが、混雑している可能性があります。		

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高音3】
【分科会】中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽） **【実施日】令和7年10月3日（金）**

担当大学名	東京藝術大学			
会 場	(会場名) 東京藝術大学 上野キャンパスアーツ&サイエンス ラボ 球形ホール			
	(所在地) 東京都台東区上野公園12-8			
講 師 (肩書・氏名)	三宅悠太（作曲家） 市川恵（東京藝術大学准教授）			
対 象	中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	40名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	「思いや意図」を出発点とした歌唱表現の探究			
研修内容の概要	本研修では、生徒一人一人の「思いや意図」を出発点とした歌唱表現の在り方について探究する。講師による実践提案を体験することを通して、学習改善、指導改善に結びつく視点や方法を学ぶ。			
	[学習指導要領との関連] 中学校音楽科： 第1学年、第2学年及び第3学年／「A表現」(1)「歌唱」ア、イ(ア)(イ)、ウ(ア)(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ 高等学校芸術科： 音楽Ⅰ、音楽Ⅱ／「A表現」(1)「歌唱」ア、イ(ア)(イ)(イ)、ウ(ア)(イ)(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ 音楽Ⅲ／「A表現」(1)「歌唱」ア、イ(ア)(イ)、ウ、〔共通事項〕(1)ア、イ			
内容と方法	本研修では、中学校の歌唱共通教材や作曲家自身による作品を取り上げ、それぞれの楽曲の要となる「音楽を形づくっている要素」に着目し、楽曲におけるそれらの働きや楽曲全体に与える効果について理解を深める。併せて、これらの要素が他の楽曲ではどのように活かされているかを比較・検討することで、音楽的な視野を広げながら表現の深まりを支える指導の在り方を考察する。さらに、こうした理解を基盤として、「音楽を形づくっている要素」を手がかりに音楽的な見方・考え方を働かせながら、思いや意図を出発点とする歌唱表現をいかに深めていくかについて探究する。			
到達目標	1. 思いや意図を出発点とした歌唱の授業づくりに関する理解を深め、各学校の実態に応じた活動を構想・工夫することができる。 2. 学習改善に向けて、教材分析の視点や歌唱指導の方法について多角的に考察することができる。			
スケジュール		実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）		参集/登壇
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～12:00	テーマ別実践研修①		参集（講義）
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～13:50	テーマ別実践研修②		参集（演習）
	14:00～16:00	テーマ別実践研修③		参集（演習）
	16:10～16:40	振り返り・質疑応答		グループワーク
	16:40～17:00	調査官による全体講評・振り返り		全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了		

（次ページへ続く）

教材・ 持ち物等	筆記用具
特記事項	<p>○資料の配布方法：当日配布</p> <p>○事前・事後課題の有無：無</p> <p>○受講する上での環境条件等：学内に学食はございますが、混雑が予想されます。</p>

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高美1】
【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（美術） **【実施日】令和7年9月29日（月）**

担当大学名	金沢美術工芸大学			
会 場	（会場名） 金沢美術工芸大学			
	（所在地） 石川県金沢市小立野2丁目40番1号			
講 師 （肩書・氏名）	荒木恵信（金沢美術工芸大学・教授）（進行：桑村佐和子（金沢美術工芸大学・教授））			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 （該当欄に○）	参集 ○ オンライン	16名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容	
テーマ	和紙と墨で擬音を連想させる独自の世界を描く
研修内容の概要	<p>本研修では中学校における「対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに，表現方法を創意工夫し，創造的に表すことができるようにする」や「造形的なよさや美しさ，表現の意図と工夫，美術の働きなどについて考え，主題を生み出し豊かに発想や構想を練る」ことに重点を置いた授業、高等学校における「対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに，意図に応じて表現方法を創意工夫し，創造的に表すことができるようにする」や「造形的なよさや美しさ，表現の意図と創意工夫，美術の働きなどについて考え，主題を生成し創造的に発想し構想を練る」ことに重点を置いた授業の展開について考える。具体的には、和紙の滲む場合と滲み止めをした場合の効果を利用して、墨で擬音から連想される独自の世界を描く。和紙と墨という素材の特性を使って生徒の創意工夫を引き出し、創造性を高めることに繋がる授業の展開について考察する。</p>
	<p>[学習指導要領との関連]</p> <p>中学校美術科：A表現（１）ア(ｱ)(２) ア(ｱ)(ｲ) B鑑賞（１）ア(ｱ)、イ(ｲ) 〔共通事項〕（１）ア、イ 高等学校芸術科（美術Ⅰ）：A表現(1) ア(ｱ)(ｲ)、イ(ｲ)(ｲ)、B鑑賞（１）ア(ｱ)、イ(ｲ)、〔共通事項〕（１）ア、イ</p>
内容と方法	<p>まず、和紙と墨という素材を用いて、これまでの作家がどのように工夫して表現してきたかについて講義するとともに、水墨画や日本画の作品を鑑賞し、そのことを確認する。</p> <p>次に、実際に和紙と墨という素材を確かめる。具体的には、①墨を硯ですりおろして墨汁をつくる、②滲む和紙の効果を利用した図を描く、③これにドーサ液を塗って滲み止めを施す、④滲まなくなった和紙に加筆して完成させる、⑤和紙や墨、ドーサ液など、それぞれの効果を理解した上で、これらを応用して独自の世界の創造を目指す。</p> <p>最後に、中学美術、高等学校芸術（美術）での授業展開についてアイディアを出し合い、今回の体験の振り返りを行う。</p>
到達目標	<p>①日本絵画に古くから用いられている和紙と墨、筆、滲み止めのためのドーサ液の効果について理解する。</p> <p>②線描や滲み、たらし込みについて実践を通して理解する。</p> <p>③擬音から独自の世界を連想することで、現実の風景や既存の概念などから離れて、新たな価値観の創造を相互に認め合う。</p> <p>④それぞれの学校の実態に合わせた授業計画を立てることができる。</p>

（次ページへ続く）

スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別）	参集／動画視聴
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	講義：和紙と墨という素材と表現	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:00	演習：和紙と墨という素材とそれを用いた表現技法（実技）	各自作業
	14:10～16:20	演習：擬音を連想させる独自の世界の創造（実技・鑑賞）	各自作業
	16:20～17:00	演習：授業への応用の可能性・振り返り	グループワーク・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	お持ちであれば、硯と墨（墨汁は不可）及び、筆や刷毛。お持ちでなければ大学のものを使用できます。		
特記事項	○資料の配付方法：研修会当日配付 ○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等：無		

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高美2】

【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（美術）

【実施日】令和7年9月30日（火）

担当大学名	愛知県立芸術大学			
会 場	(会場名) 愛知県立芸術大学 メディア映像専攻棟 メディアスタジオ (集合場所) 管理棟3階中会議室			
	(所在地) 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-114			
講 師 (肩書・氏名)	愛知県立芸術大学 美術学部 准教授 八嶋有司、株式会社THE U.D.S. 代表取締役 藤井智			
対 象	中学校美術科, 高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	20 名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容	
テーマ	中学校美術科、高等学校芸術科（美術）における映像を生かした教育実践のこれから
研修内容の概要	<p>中学校・高等学校の学習指導要領には、「映像メディア」や「映像表現」といった表象領域についての記載があります。しかし、実際の多くの教育現場では、「パラパラ漫画」や「おどろき盤」の制作を通じて映像の原理を体験するか、あるいは映像作品を鑑賞するだけにとどまっているのが現状ではないでしょうか。そうした授業の中では、映像を結ぶためのカメラという装置の存在や、それを生かした撮影技術に触れる機会がほとんどありません。さらに言えば、20世紀最大の発明とも称される映像表現の根幹にある「カメラ」という装置、そしてそれが現代社会で人々とどのように関わっているのか——今や世界の人口を超える数のカメラが私たちの生活に深く浸透しているという事実すら、十分に考察されていないように思われます。本研修では、カメラを用いた「撮影の実践」を軸に、ワークショップ・講義・ディスカッションを行き来しながら、これからの映像を生かした教育のあり方について、参加者の皆さんと一緒に考えていきます。</p> <p>[学習指導要領との関連]</p> <p>中学校美術科：A表現(1)ア(ア)、(2)ア(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(ア)、〔共通事項〕アイ</p> <p>高等学校芸術科（美術Ⅰ）：A表現(3)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(イ)、〔共通事項〕アイ</p>
内容と方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. カメラと撮影：撮影するためのカメラの基本的な機能について学ぶ 2. 撮影実践1：グループに分かれ、決められたルール（課題）に従い撮影を行う 3. 映像を見る：撮影した映像について鑑賞及び発表を行う。ディスカッションを経て新たな発見を得る 4. 撮影実践2：ディスカッションを踏まえ、新たなルールを追加し再度撮影に取り組む 5. まとめ：意識的に撮影すること、カメラと身体の関係について理解し、映像教育実践の基盤を学ぶ
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ISO感度、シャッタースピード、F値など、撮影におけるカメラの基本的な関係学ぶ 2. 撮影を通して、映像がつくられる工程を楽しむ 3. つくられた映像の鑑賞から、新たな課題を発見し、更なる発展的な取り組みに応用できる 4. 機械と身体の関係について意識的になる 5. 今回の研修会で学んだことや経験したことを中学校、高等学校の教室へ持ち帰り応用させることができる

(次ページへ続く)

	実施内容	実施方法
スケジュール	9:00～9:15	受付（管理棟3階中会議室）・移動（メディアスタジオ）
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）
	10:45～11:00	休憩
	11:00～12:00	カメラを使った授業実践の概説及び技術紹介
	12:00～13:00	昼食
	13:00～14:00	撮影実践1「映像しりと：基本」撮影-鑑賞-発表-レビュー
	14:00～15:30	撮影実践2「映像しりと：発展」撮影-鑑賞-発表-レビュー
	15:30～16:40	ディスカッション：気づきの共有、講義：カメラと意識について
	16:40～17:00	全体の振り返り・質疑応答・総括
	17:00	アンケート提出後、研修終了
教材・持ち物等	スマートフォンを持参できること。スマートフォンに「Blackmagic Camera」アプリケーションをインストールすること。	
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無： 無 ○受講する上での環境条件等：上段の「教材・持ち込み等」参照 ○昼食は生協購買部ならびに食堂が営業しておりますが、お昼の時間帯は混み合いますので、ご持参いただくことをお勧めいたします	

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高美3】

【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（美術）

【実施日】令和7年9月30日（火）

担当大学名	秋田公立美術大学			
会 場	（会場名） 秋田公立美術大学 講義棟（C棟）絵画実習室 4			
	（所在地） 秋田県秋田市新屋大川町 1 2 - 3			
講 師 （肩書・氏名）	大関智子（秋田公立美術大学 美術教育センター 准教授）			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 （該当欄に○）	参集 ○ オンライン	15名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	日本画の材料と表現技法 ～絹本への描画を通して～			
研修内容の概要	古くから我が国で描かれてきた日本画とはどのようなものか、実際に技法や材料、用具に触れながらその特性について理解を深める。また、小作品の制作を通して基本的な制作工程を学ぶ。小作品の制作では、効果的な技法や材料の組合せを工夫することを通して、作品の主題を追求しながら創造的に表現することを目指す。			
	[学習指導要領との関連] 中学校美術科：「A表現」(1)ア(ア)、(2)ア(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)ア(ア)、イ(イ)、〔共通事項〕(1)アイ 高等学校芸術科（美術Ⅰ）：「A表現」(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、「B鑑賞」ア(ア)、イ(イ)、〔共通事項〕(1)アイ			
内容と方法	導入として、日本画の歴史と表現の変遷に焦点を当てた講義を行う。その後、支持体（和紙、絹）や顔料（岩絵具、粉絵具）、膠などの材料や用具について実際に扱いながらその用法と特性について理解し、基本的な制作工程に従って小作品を制作する。また、学校現場における教材としての展開も視野に入れ、近年の教材化の動向についても講義の中で触れる。			
到達目標	・日本画の材料や用具、表現について知り、その特性を理解する。 ・日本画の技法や材料による効果的な表現を工夫し、制作する作品における自身の主題を創造的に表す。			
スケジュール		実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別）		参集/動画視聴
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～12:00	オリエンテーション（趣旨説明、日程の確認など） ミニ講義「日本画ってどんなもの？」		参集
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～13:30	素材実験「日本画の技法と材料、描画用具について」		参集
	13:30～16:40	小作品制作 ※適宜休憩		各自作業
	16:40～17:00	制作作品鑑賞、まとめ		参集
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	筆記用具、B5サイズのスケッチ（画題は自由）			
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無し ○受講する上での環境条件等：エプロンの着用等、汚れても良い服装で参加する。			

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高美4】
【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（美術） **【実施日】令和7年10月2日（木）**

担当大学名	武蔵野美術大学			
会 場	(会場名) 武蔵野美術大学			
	(所在地) 〒187-8505 東京都小平市小川町1-736			
講 師 (肩書・氏名)	三澤 一実 武蔵野美術大学教職課程研究室教授 高谷 智子 武蔵野美術大学映像学科専任講師			
対 象	中学校美術科, 高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	40名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	授業で使える映像表現の実験 ―コマ撮りアニメーションを使って新たな表現を模索する―			
研修内容の概要	コマ撮りアニメーションの制作を通じて、映像表現の基礎的知識と多様な表現の可能性を学ぶ。コマ撮りアニメーションは、さまざまな素材や撮影手法を取り入れることが可能な、映像表現の中でも特に自由度の高い技法であり、個々の画力に依存することなく創作をおこなうことができる。その自由な表現性を活かしながら、光、時間、動きなどの造形の要素の働きを学び、表現技法を追求し、アイデアを発展させ、グループでの協議を重ねつつ制作を進める、最終的には複数の素材・技法を組み合わせた映像作品を完成させ、上映を行う。制作には、タブレット用アプリケーション「KOMA KOMA」を使用する。			
	[学習指導要領との関連] 中学校美術：A表現(1)ア(ア)、(2)ア(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(ア)、〔共通事項〕ア.イ 高等学校芸術（美術）：A表現(3)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(イ)、〔共通事項〕ア.イ			
内容と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・前半に、主に素材や技法に重きをおいたアニメーションの講義と作品鑑賞を行う。 ・その後、さまざまな素材を実験しながら、グループでアイデアを話し合う。 ・グループごとに複数の素材・技法を組み合わせたアニメーションを制作する。 ・コマ撮りアプリケーション「KOMA KOMA」を活用し、タブレットで撮影を行う。 ・完成後、各グループで発表をおこなう。教員よりフィードバックを行う。 ・完成した作品は資料としてデータで持ち帰ることができる。 			
到達目標	①映像制作のための基礎的な内容やメディア機器等の用具の特性などを習得する。②映像表現で扱う造形の要素の働きを理解する。③映像の表現技法を試す中で、効果的な表し方を考え、見つけ、制作に生かすことができる。④作品鑑賞を通して映像表現の見方や感じ方を深めることができる。 上記の①～④の資質・能力が育めるように指導について考えることができる。			
スケジュール		実施内容	実施方法	
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修	参集/登壇	
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～11:10	研修前の操作確認・オリエンテーション（三澤）	参集	
	11:10～12:00	講義：「アニメーションの素材と技法」（高谷）、グループ分け	参集	
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～15:30	演習：「グループによるコマ撮りアニメーション制作」（高谷）	参集	
	15:30～16:00	演習：「発表&講評会」（高谷、三澤）	参集	
	16:00～16:30	講義：まとめ「学習指導要領上の位置づけについて」（三澤）	参集	
	16:40～17:00	調査官による全体講評・振り返り	全体講評・振り返り	
	17:00	アンケート提出後、研修終了		

（次ページへ続く）

教材・ 持ち物等	PC・タブレットなど（任意）
特記事項	<input type="radio"/> 資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード <input type="radio"/> 事前・事後課題の有無：特になし <input type="radio"/> 受講する上での環境条件等：特になし

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高美5】
【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（美術） **【実施日】令和7年10月2日（木）**

担当大学名	女子美術大学			
会 場	(会場名) 女子美術大学 相模原キャンパス			
	(所在地) 神奈川県相模原市南区麻溝台1900			
講 師 (肩書・氏名)	広瀬晴美（女子美術大学教授）、鈴木淳子（女子美術大学教授）			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容	
テーマ	絵の具の魅力 ―絵の具づくりから題材開発へ―
研修内容の概要	<p>・教科横断的な視点で絵の具の成り立ちや歴史を捉え、描画材に着眼した絵画の変遷や作品の特徴について理解を深める</p> <p>・絵の具づくりの実技体験を通して、絵の具の特徴を生かした題材や授業展開を構想する。</p> <p>[学習指導要領との関連]</p> <p>中学校美術科：「A表現」(1)ア(ア)、(2)ア(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)ア(ア)、「共通事項」(1)ア、イ</p> <p>高等学校芸術科：美術Ⅰ／「A表現」(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)ア(ア)、「共通事項」(1)ア、イ</p> <p>美術Ⅱ／「A表現」(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)、「B鑑賞」(1)ア(ア)、「共通事項」(1)ア、イ</p> <p>美術Ⅲ／「A表現」(1)ア(ア)、イ(ア)、「B鑑賞」(1)ア(ア)、「共通事項」(1)ア、イ</p>
内容と方法	<p>水彩絵の具、油絵の具、日本画の岩絵の具などの絵の具は、どのような材料・製法でつくられ、どのように使われてきたのか、絵の具の成り立ちと変遷を理解し、絵の具づくりを実技体験する。絵の具づくりの工程では、鉱物を粉碎して作られた顔料に、展色材を加えて練り上げたものをチューブに充填する段階までを行い、顔料と展色材の種類や構成によって特徴の異なる絵の具ができることを確かめる。自作したテンペラ絵の具を使い、その特徴を生かしたドローイングを試みるとともに、描画材としての絵の具の特徴を生かした表現方法など生徒の興味や関心を高める題材、授業展開を構想する。</p>
到達目標	<p>・教科横断的な視点で絵の具の成り立ちや歴史を捉え、描画材に着眼した絵画の変遷や作品の特徴について理解を深める。</p> <p>・絵の具づくりの実技体験を通して、絵の具の特徴を生かした題材や授業展開を構想し、授業づくりに生かす。</p>

（次ページへ続く）

		実施内容	実施方法
スケジュール	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）	参集／動画視聴
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	「研修テーマと趣旨」「絵の具の成り立ちと歴史」	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:00	絵の具づくり ①油絵の具	参集
	14:00～15:00	絵の具づくり ②テンペラ絵の具	参集
	15:00～16:45	テンペラ絵の具によるドローイング 作品の鑑賞と題材・授業展開の構想	参集
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・ 持ち物等	筆記用具、水彩用筆・パレット、雑巾、汚れてもよい服装（エプロン、作業着）		
特記事項	○資料の配布方法：研修会場で配布する ○事前課題：無 ○受講する上での環境条件等：無		

令和7年度 芸術系教科担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高美6】
【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（美術） **【実施日】令和7年10月3日（金）**

担当大学名	東京造形大学			
会 場	（会場名） 東京造形大学			
	（所在地） 〒192-0992 東京都八王子市宇津貫町1556			
講 師 （肩書・氏名）	准教授・阿久津 裕彦（彫刻専攻） 教授 ・山田猛 （教職課程）			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 （いずれか該当 する欄に○）	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	新たな視点からの美術教育再考ー解剖学からの彫刻制作を通してー		
研修内容の 概要	解剖学の視点を取り入れた彫刻制作を通し、新たな視点を取り入れることによる美術教育の再考とアプローチを目指す。医学分野解剖学を専門にする彫刻専攻教員による講義と演習、及び教職課程教員による新たな視点を取り入れた美術教育のアプローチを参加者と共に探る。		
	[学習指導要領との関連] 中学校美術科：A表現(1)ア(ア)、(2)ア(ア)(イ)、B鑑賞 (1)ア(ア) イ(イ) 、〔共通事項〕(1)アイ 高等学校芸術科（美術Ⅰ）：A表現(1)ア(ア)(イ) イ(ア)(イ) B鑑賞 (1)ア(ア)イ(イ) 、〔共通事項〕(1)アイ		
内容と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・解剖学に基づく講義を通し人体構造を理解した上で、演習としてその学びを生かした彫刻作品の制作を行う。 ・新たな視点を取り入れた制作を通して、生徒が造形的な見方・考え方を働かせることができるように参加者同士で鑑賞や指導法についての協議を行う。 ・新たな視点を取り入れた美術教育のアプローチを参加者と共に探る。 		
到達目標	解剖学の視点を取り入れた彫刻制作や参加者との協議を通し、新たな視点を取り入れることによる美術教育の再考とアプローチについての学びを得る。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：文化庁教科調査官による対面）	参集 / 登壇
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	オリエンテーション、レクチャー①、制作活動導入	参集 / 受講
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:45	演習①制作	参集 / 制作
	14:45～15:00	レクチャー②	参集 / 受講
	15:00～16:40	演習②制作	参集 / グループワーク
	16:40～17:00	調査官による全体講評・振り返り	全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・ 持ち物等	筆記用具、エプロン等 油粘土による彫刻制作への備え		
特記事項	○資料の配布方法： 研修会当日配布 ○事前・事後課題の有無： 無 ○受講する上での環境条件等：学食、学内コンビニエンスストア、学食スペース及び学内カフェテリア飲食スペース利用可。学外近隣には飲食店がありませんのでご注意ください。		

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中美高工1】
【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（工芸） **【実施日】 令和7年9月30日（火）**

担当大学名	秋田公立美術大学			
会 場	（会場名） 秋田公立美術大学 木工金工室			
	（所在地） 秋田県秋田市新屋大川町12-3 秋田公立美術大学			
講 師 （肩書・氏名）	秋田公立美術大学 美術教育センター 教授・尾澤 勇			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（工芸）担当教員等	定員 （該当欄に○）	参集 ○ オンライン	15名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容	
テーマ	銅・真鍮による、技法・表現の可能性ー鍛金の皿制作を通してー
研修内容の概要	<p>銅板と真鍮板（七三黄銅）を用いて、鍛金技法により皿等の制作を行う。銅は古くから「あかがね」と言われ熱や電気の伝導率が高く、食器や厨房用品などに使われてきた。真鍮（黄銅）は銅と亜鉛の合金で、「プラス」とも言われ黄金色が美しく金管楽器や器物に用いられている。銅板や真鍮板は、金鋸などで加工変形すると加工硬化し、加熱し焼き鈍し工程を経ることにより軟化し、引き続き加工を続けることができる。この研修では、金属の熱処理やその後の酸化皮膜除去、表面の化学変化による着色など、金属工芸ならではの特性を体感する。板金は、木臼や砂袋に対して木槌などで膨らませ、当金や金床などを敷きながら各種の金鋸でハンマリングすることで器状にすることができる。絞り技法を繰り返せば、深い容器状も可能であるが、今回は、比較的簡便な基本的な当金や金床などを用いることで、学校での授業に活用できるように、あまり深い形状を避け皿状の器とする。そのかわり、鋸目や鑿などでの加飾や銀蠟流しなどの表面のテクスチャーなどを試しながら様々な魅力的な表現を体験する。また制作の工程で道具や薬品などの安全な使用方法などにも触れる。</p> <p>中学校や高等学校の生徒に使う目的や条件などを基に、使用する者の立場や生活や社会の中での使用も考えながら、自己への思いや他者への願いを実現することのできる題材に発展させることができる。</p> <p>[学習指導要領との関連] 中学校美術科：A表現（１）イ(ウ)、（２）ア(ア)(イ)、B鑑賞（１）ア(イ)、イ(ア)(イ)、〔共通事項〕（１）ア イ 高等学校芸術科（工芸）：A表現（１）ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、（２）ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、B鑑賞（１）ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、〔共通事項〕（１）ア イ</p>
内容と方法	<p>①オリエンテーション：鍛金と金工の教材化について（加工硬化と焼き鈍し等の実演を含む）</p> <p>②使用用途を考え発想や構想をし、材料（板金）を無駄なく使用し、皿などの形状を考え材料取り（外形を罫書く）を行う。（皿などの外形はあまり鋭角状な図案は避ける。）</p> <p>③板金に外形図案を写す。</p> <p>④金切鋏や糸鋸で切り抜き、外形の端面を鑪でバリを取り滑らかにする。</p> <p>⑤焼き鈍し（材料の軟化）と酸洗い</p> <p>⑥砂袋や木臼などを敷き、その上から木槌などで膨らみをつける。</p> <p>⑦金床や様々な形状の当金などを敷き金鋸でならしたり、鋸目や鑿などで装飾模様をつけたり銀蠟流しなどを行ったりして表面テクスチャーを工夫して完成に近づける。</p> <p>⑧端打ち等を施したりし、硫化着色などを行い完成する。</p> <p>⑨受講教員同士の相互作品鑑賞を通して、この課題の授業への応用に対して、ディスカッションする。</p>
到達目標	銅や真鍮板を用いた鍛金の皿等を完成し、実際に授業に展開するための指導上の注意点等を確認し、授業化の視点を深めることができる。

（次ページへ続く）

		実施内容	実施方法
スケジュール	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）	参集／動画視聴
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部） オリエンテーション及び板金の焼き鈍し作業（実演）	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～13:30	テーマ別実践研修（午後の部） 発想や構想をし、板金2枚に外形図案を写す。	参集
	13:30～14:30	外形図案を基に切り抜き、焼き鈍し・酸洗い作業、膨らまし作業を行う。	各自作業
	14:30～14:40	休憩	
	14:40～15:15	金鋸や鑿による加飾、銀蠟などによる紋様付けなど。	各自作業
	15:15～15:50	仕上げ・硫化着色等。感想用紙を記入する。	各自作業
	15:50～16:40	作品講評（受講教員同士のディスカッション）	グループワーク
	16:40～17:00	振り返り	振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・ 持ち物等	教材（学校で用意します。）：銅板1枚・真鍮（七三黄銅）1枚、銀蠟等、各種鍛金に用いる工具・薬品等、感想用紙 各自の持ち物：軍手、筆記用具、作業しやすい服装、お持ちであれば高等学校工芸Ⅰの教科書		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等：作業着、軍手などを着用し安全に作業できる準備		

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中美高二2】
【分科会】 中学校美術科・高等学校芸術科（工芸） **【実施日】 令和7年9月30日（火）**

担当大学名	東京藝術大学			
会 場	(会場名) 東京藝術大学美術学部 中央棟第3講義室及び金工棟 2 階オープンギャラリー			
	(所在地) 東京都台東区上野公園12-8			
講 師 (肩書・氏名)	前田宏智（美術学部工芸科彫金教授） 渡邊五大（東京藝術大学美術研究科美術教育研究室 教授） 崔壽現（美術学部工芸科彫金テクニカルインストラクター） 熊坂美友（美術学部工芸科彫金教育研究助手） 石芮寧（美術学部工芸科彫金教育研究助手） 鶴岡冬菜（美術学部工芸科彫金ティーチングアシスタント）			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（工芸）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	20名
＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	透し彫りによる小品の制作体験			
研修内容の概要	我が国では、古代より様々な彫金技法による加飾が施された金属工芸品が多く制作されてきました。その中心となるのは、鑿(たがね)を用いた技法です。彫り、打ち出し、象嵌など多岐にわたりますが、今回の研修では基本として最も重要な毛彫りを取り上げていきます。毛彫り鑿による線刻を体験することによって、金属素材の表情や表現の豊かさを体感していただけます。図案は古典から選択する予定ですが、古の工人たちの感性にまで思いを馳せることができればと考えています。			
	[学習指導要領との関連] 中学校美術：A表現(1)イ(ウ)、(2)ア(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(イ)、イ(ア)(イ)、〔共通事項〕(1)アイ 高等学校芸術科（工芸Ⅰ）：A表現 (1)ア(ア)(イ) イ(ア)(イ)、B鑑賞 (1)ア(ア)、イ(ア)(イ) 〔共通事項〕(1)アイ			
内容と方法	黄銅板(真鍮板)に毛彫り鑿による彫り、糸鋸による透かしを中心に行います。図案はこちらで用意したものから選択していただきます。講師による鑿のレクチャー、デモンストレーションを踏まえて、それぞれピッチボール(松脂)に固定されている黄銅板に練習を含め毛彫りによる彫りを進めます。松脂から外した板を糸鋸により透かし(模様を切り抜く)を施して模刻の仕上がりとなります。そのあとは、ヘアラインや磨きで仕上げ、額装して完成となります。過程の中で、ヤスリやキサゲなどの工具を使用することもあります。			
到達目標	彫金の現場での素材体験や道具に触れること、制作体験をすることにより、実際の授業にどのように生かせるか考えます。また古典作品の模刻などからも、現在の工芸の姿を考える機会とし、将来への美術(工芸)教育を考える機会とします。			
スケジュール		実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）		参集／登壇
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～12:00	講師紹介、彫金研修実施についての説明、毛彫りデモンストレーションなど、実技研修		参集
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～16:20	進行に合わせての説明、実技研修		各自作業
	16:20～16:40	片づけ		
	16:40～17:00	調査官による全体講評・振り返り		全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	作業のしやすい服装、筆記用具(細字油性ペン)、タオル(作品用、手洗用)			
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無し ○受講する上での環境条件等：学内に学食はございますが、混雑が予想されます。			

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【高書1】

【分科会】高等学校芸術科（書道）

【実施日】令和7年10月3日（金）

担当大学名	東京学芸大学			
会 場	（会場名） 東京学芸大学			
	（所在地） 東京都小金井市貫井北町4-1-1			
講 師 （肩書・氏名）	東京学芸大学教授 加藤泰弘 独立書人団理事長 山中翠谷 愛知県立愛知商業高等学校教諭 加藤真太郎			
対 象	高等学校芸術科（書道）担当教員等	定員 （該当欄に○）	参集 ○ オンライン	40名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	高等学校芸術科書道における墨色を生かした創作指導の工夫 – 作品の構想と表現の工夫の視点 –		
研修内容の概要	現職教員の講師による教育現場の課題の発表と研修会参加者による協議、書壇で活躍している講師による墨色を生かした創作についての実技指導と研修会参加者の実技演習、教科調査官による指導・講評を通して、現行学習指導要領の趣旨と墨色を生かした創作並びに授業での指導の工夫について理解を深める。		
	[学習指導要領との関連] 高等学校芸術科（書道）の主として A 表現・・・・・・・・（2）漢字の書 ア（ア）（イ）（ウ）、イ（ア）（イ）、ウ（ア）（イ） B 鑑賞・・・・・・・・（1）ア（ア）（イ）、イ（ア）（イ）（ウ） [共通事項]・・・（1）ア、イ		
内容と方法	・教科調査官による理論研修（高等学校芸術科書道に係る行政面からの解説） ・現職教員による授業研究発表（「書道Ⅰ」「漢字の書」の墨色を生かした創作指導）と研修会参加者による協議 ・書壇で活躍している講師による墨色を生かした表現の実技指導と解説、研修会参加者の実技演習 ・教科調査官による指導・助言		
到達目標	・学習指導要領の趣旨と高等学校芸術科書道の指導内容、授業改善の視点について理解を深める。 ・墨色を生かした創作における作品の構想と表現の工夫について、実技演習を通して理解を深める。 ・学習指導要領の趣旨を踏まえ、墨色を生かした創作指導の授業並びに指導を工夫できる指導力を身に付けるようにする。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）	参集/登壇
	10:45～11:00	休憩	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）	参集（研究発表）
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:00	テーマ別実践研修（午後の部①）	参集（協議）
	14:00～14:15	休憩	
	14:15～16:30	テーマ別実践研修（午後の部②）	参集（実技指導・演習）
	16:30～16:40	休憩	
	16:40～17:00	調査官による全体講評	全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	書道用具（下記資料とともに指示）、『高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）解説 芸術編』（書道記載部分）		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：有 ○受講する上での環境条件等：無		